保存版　このハザードマップは令和８年に改定して新しくなりました！　京都市 CITY OF KYOTO

京都市 伏見区東部
洪水ハザードマップ

平成 25 年台風第 18 号による桂川の洪水で被害を受けた嵐山の様子（総雨量 428 ㎜）

京都市洪水ハザードマップについて

「京都市洪水ハザードマップ」は、想定し得る最大規模の降雨により市内を流れる川が氾濫した場合の浸水範囲や深さなどの情報をまとめたものです。
このハザードマップは、従来のハザードマップを改定し、既存の「洪水予報河川」と「水位周知河川」に加えて、それ以外の比較的小規模な河川の情報を掲載しています※。
このハザードマップは、これらの河川で発生するおそれのある洪水に対して、日頃からの備えや適切な避難行動をとっていただくために作成したものです。

京都市洪水ハザードマップの使い方

（1）水害について知り、身の周りの浸水リスクと、いざという時の避難先などの取るべき行動を確認しましょう。
（2）防災情報や避難情報を調べる方法を知り、水害が発生した時に取るべき避難行動や心構えを確認しましょう。
（3）水害に対して日頃からできる備えについて知りましょう。

※ハザードマップで対象とする河川の種類

洪水予報河川	洪水により国民経済に重大な損害が生じるおそれがあるとして指定された河川であり、大雨のときには水位などの情報が洪水予報として発表されます。京都市内では宇治川、桂川、木津川、鴨川、高野川が指定されています。
水位周知河川	洪水予報河川以外で、洪水により国民経済に重大な損害が生じるおそれがあるとして指定された河川です。特別警戒水位を設定し、大雨のときにはその到達を通知・周知します。洪水予報河川に準じる規模の河川や、大きな支川などが主に指定されます。
その他の河川	上記２つ以外の中小規模の川が多いですが、その分、短時間の大雨でも洪水・浸水被害が生じるおそれがあるため注意が必要です。

●地図についてのお問い合わせ
京都市行財政局防災危機管理室 TEL 075-222-3210

●避難場所についてのお問い合わせ
伏見区役所地域力推進室（総務・防災担当）TEL 075-611-1295
深草支所地域力推進室（総務・防災担当）TEL 075-642-3125
醍醐支所地域力推進室（総務・防災担当）TEL 075-571-6105

発行：令和 8 年 6 月／京都市行財政局防災危機管理室
京都市印刷物　第 080581 号

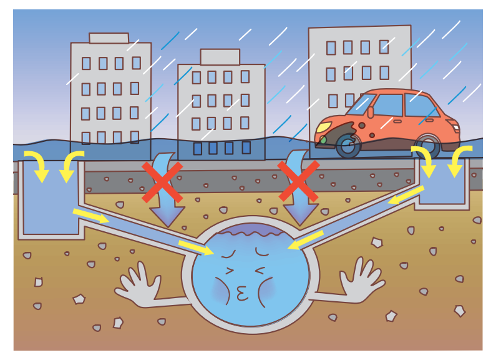
水害について知ろう

水害にはこの洪水ハザードマップで取り扱う「洪水（外水氾濫）」と「内水氾濫」の２種類があり、それぞれ浸水がおきる場所や発生のメカニズムが異なります。２つの水害を正しく理解して、日頃の備えや水害発生時の適切な避難行動につなげましょう。

内水ハザードマップも確認しよう！

内水氾濫がおきるしくみ

内水氾濫は、大雨が降り、下水道や水路の排水能力を超えたときや、雨水の排水先となる川の水位が高くなり排水ができなくなることで発生する水害です。**短時間であっても強い雨**が降ったときなどに発生しやすい特徴があります。特に水路沿いや、**アンダーパスやくぼ地などの標高が低い場所、地下街**は水害がおきやすい箇所です。


下水道の排水能力を超える雨が降ると、水があふれたり、排水されない水が地上にとどまったりします。

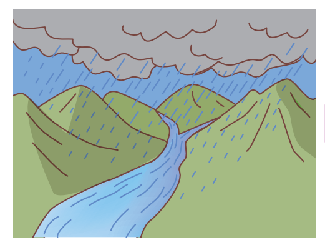
平常時は、都市に降った雨が、下水道や水路を通って川に排水されます。

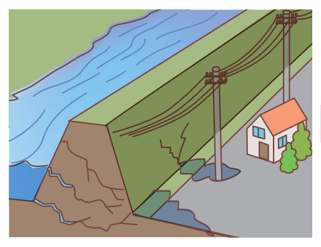
大雨で川の水位が上がり、排水されにくくなると、下水道や水路から水があふれます。

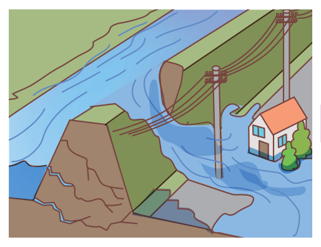
さらに大雨が続くと洪水（外水氾濫）の危険が高まります

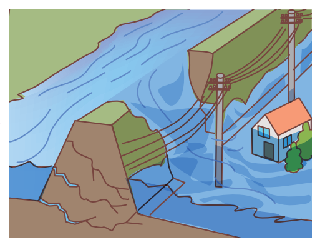
洪水（外水氾濫）がおきるしくみ

洪水（外水氾濫）は、大雨で川の水があふれて流れ出し、川の外側でおきる水害です。あふれた水の流れで堤防が決壊するおそれもあり、家屋が倒壊したり押し流されるような大きな被害が発生することがあります。


大雨により川の水位が上がり始めます。


水位が上昇すると、堤防にかかる水の圧力が強くなります。

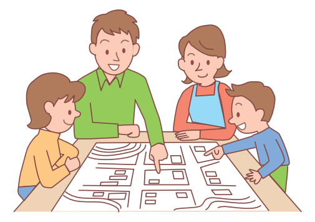

水の圧力に堤防が耐えられなくなると、堤防が崩れ始め周辺に被害が発生します。


崩れた箇所が広がり、水が勢いよく流れだし、周辺の家屋などに被害が発生します。

大雨が降り続くと、内水氾濫と洪水（外水氾濫）がどちらも発生することがあります。一般的に洪水（外水氾濫）の方が水害の規模が大きいため、**内水氾濫だけを想定した避難行動では洪水が発生したときに対応できない**おそれがあります。
また、大雨の際には土砂災害が発生するおそれも高くなるため、身の周りや避難経路上にある土砂災害警戒区域にも注意する必要があります。

水害リスクと避難行動を確認しよう

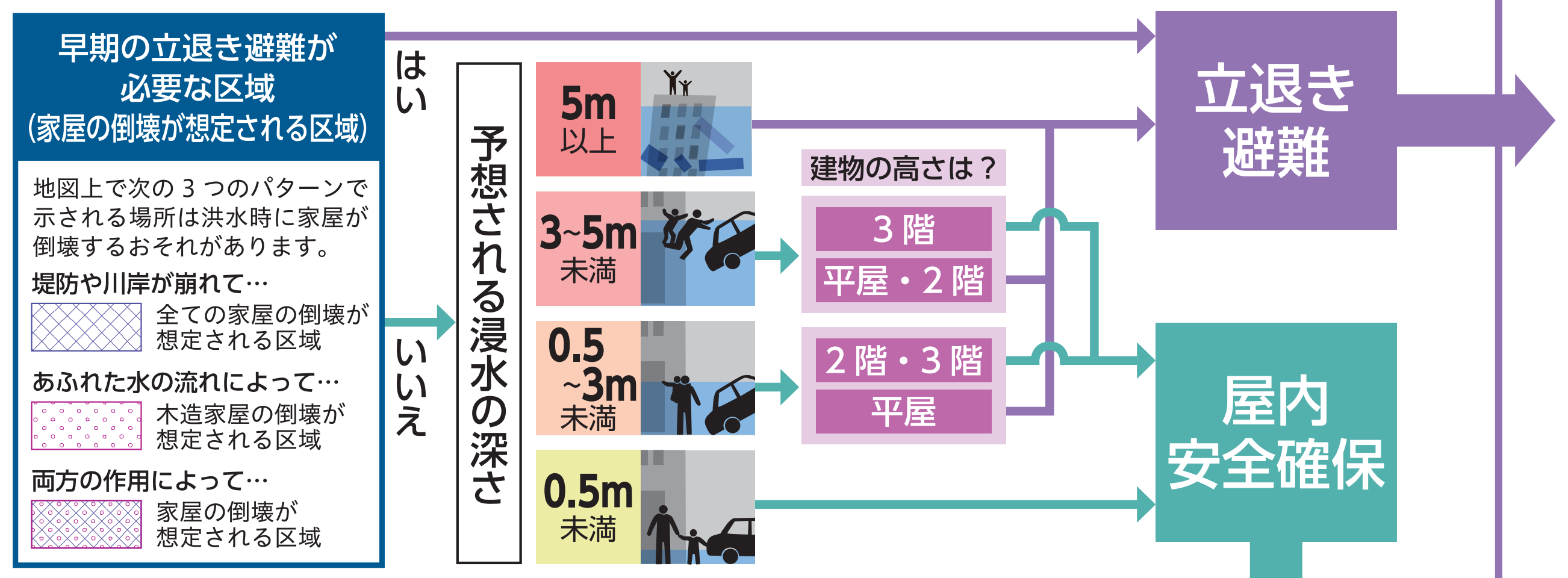
水害リスクと避難場所の確認



- このハザードマップを利用して、自宅や身の周りの浸水の深さや範囲、適切な避難行動を確認しましょう。
- 安全な避難場所の位置や、自宅からの避難経路をハザードマップで確認しましょう。複数の避難先を把握しておくことで避難の安全性が高まります。
- 水害の状況により、市が発令する避難情報や、開設される避難場所は異なります。避難の際は、市の HP などで状況を確認しましょう。

適切な避難行動を確認

想定される浸水の深さ、建物の場所・高さによって、適切な避難行動は異なります。
自分にとって正しい避難行動を知りましょう。



早期の立退き避難が必要な区域（家屋の倒壊が想定される区域）

地図上で次の３つのパターンで示される場所は洪水時に家屋が倒壊するおそれがあります。

堤防や川岸が崩れて…
▨ 全ての家屋の倒壊が想定される区域

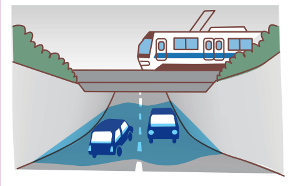
あふれた水の流れによって…
▨ 木造家屋の倒壊が想定される区域

両方の作用によって…
▨ 家屋の倒壊が想定される区域

※家屋の倒壊が想定される区域は、裏面のマップで確認してください。

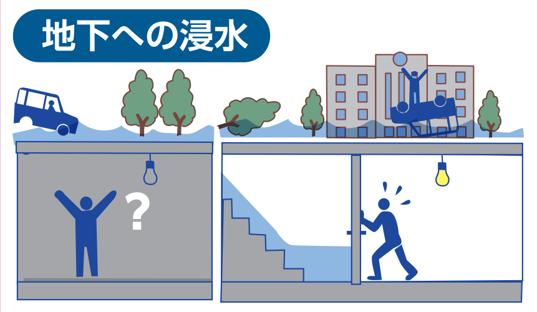
浸水の危険性が高い場所を避ける

低地への浸水



アンダーパスは大雨時に冠水・浸水しやすく危険です。
裏面の地図にはアンダーパスなど冠水・浸水の危険性が高い場所を示しています。

地下への浸水

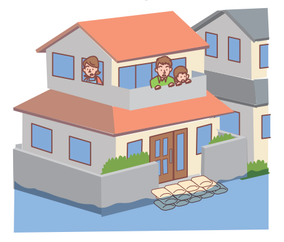


地下は外の状況が確認しづらいうえ、地上から浸水が流入したり、停電や水圧でドアが開かなくなるといった危険があります。避難時には通行しないようにしましょう。

市の HP で、市内の地下施設の一覧を確認できます。
京都市　避難確保・浸水防止

屋内安全確保（垂直避難）

浸水の深さが浅い場合は、建物の上階に避難することで安全を確保できる場合があります。**裏面のマップで身の周りで想定される浸水深を確認**しましょう。
浸水深がひざ下未満でも水の流れによっては歩行が困難となります。無理に屋外へ移動せず、今いる建物の高所に垂直避難をしましょう。なお、平屋の場合は、早い段階で最寄りの高く頑丈な建物等に避難しましょう。



2 階以上へ垂直避難

どこに立退き避難するかを確認しよう

- 裏面のマップを見て、自宅や職場から最寄りの避難場所や、水害の危険性の低い場所を確認しましょう。
- 川が氾濫して浸水が発生する前に、市が指定する避難場所や、浸水の危険性がない場所か、もしくは近くの高い建物などの安全な場所に避難しましょう。
- 立退き避難時には既に内水氾濫が発生しているおそれがあるので、内水ハザードマップもあわせて確認し、安全な避難経路を事前に把握しておきましょう。

お住まいの学区の緊急避難場所

水害と土砂災害の危険性の低い地域の親戚、友人宅など安全な場所

避難場所の開設状況は市の HP などで確認しましょう
→【防災・気象情報を調べよう】を参照

自分の避難先をメモしよう

お住まいの学区の緊急避難場所
〇〇小学校
水害と土砂災害の危険性の低い地域の親戚、友人宅など安全な場所　**記入欄**
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

安全に避難するために心がけること

1 浸水が始まる前に避難をしよう

事前に避難を！

2 川や橋には近づかない！

3 側溝やマンホールには注意！

4 車での避難はひかえよう！

5 高齢者や障がいのある方などの避難の手助けを！

6 １人での避難はひかえて周囲の人に声をかけよう

7 動きやすい格好で避難しよう

- 荷物をまとめて片手を自由に
- 長靴は厳禁！
- ステッキや傘で足元を確認

避難情報と住民がとるべき行動

洪水（外水氾濫）の危険性が高まった地域には避難情報が発令されるので、その地域にいる人は、早めに避難しましょう。一方で、局地的な大雨や突発的な土砂災害の場合には、避難情報が出ない場合もあります。避難情報がなくても普段の雨と違うと感じたら、早めに身の安全を守る行動をとりましょう。

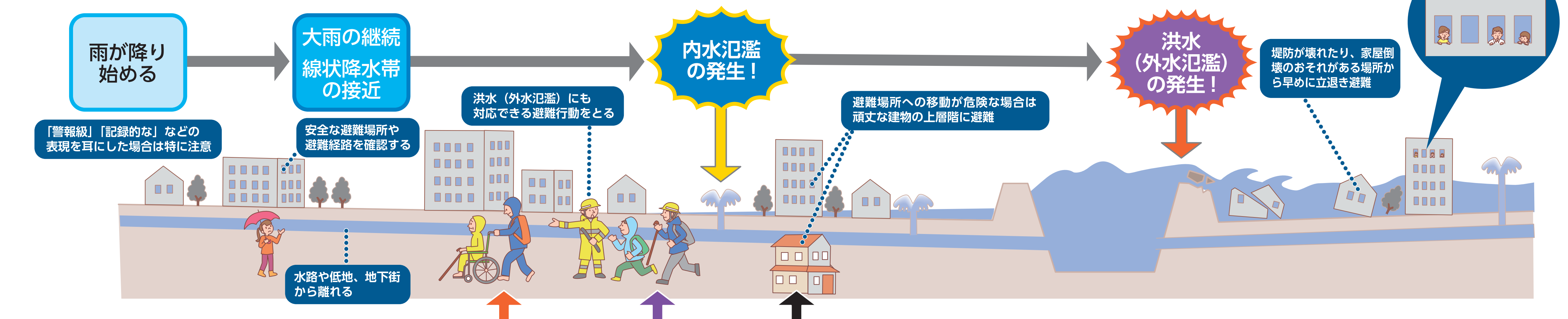
また、避難情報は警戒レベルの順番どおりに発令されない場合もあるのでご注意ください。これらの情報等をただ待つだけでは、いつのまにか状況が悪くなり、避難のタイミングを逃してしまうおそれがあります。自ら気象情報や周りの状況に注意し、行動するよう心がけましょう。

警戒レベル	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4	レベル 5
状況	今後、気象悪化のおそれ	気象状況の悪化	災害のおそれあり	災害のおそれ高い	災害発生または切迫した状況
チェックすべき情報	天気予報 雨雲の進路 早期注意情報	大雨注意報 氾濫注意報 （氾濫注意情報）	大雨警報 氾濫警報 （氾濫警戒情報） **高齢者等避難**	大雨危険警報 氾濫危険警報 （氾濫危険情報） **避難指示**	大雨特別警報 氾濫特別警報 **緊急安全確保**

※氾濫注意報［洪水予報河川］・氾濫注意情報［水位周知河川］は、いずれも氾濫注意水位に到達したときに出されます。
氾濫警報［　〃　］・氾濫警戒情報［　〃　］は、いずれも避難判断水位に到達（又は見込み）したときに出されます。
氾濫危険警報［　〃　］・氾濫危険情報［　〃　］は、いずれも氾濫危険水位に到達（又は見込み）したときに出されます。

市内の要配慮者利用施設

市の HP で、市内の要配慮者利用施設の一覧を確認できます。
京都市　避難確保・浸水防止


立退き避難が遅れたら、近くの高く頑丈な建物に避難
雨が降り始める
「警報級」「記録的な」などの表現を耳にした場合は特に注意
大雨の継続
線状降水帯の接近
安全な避難場所や避難経路を確認する
洪水（外水氾濫）にも対応できる避難行動をとる
内水氾濫の発生！
避難場所への移動が危険な場合は頑丈な建物の上層階に避難
洪水（外水氾濫）の発生！
堤防が壊れたり、家屋倒壊のおそれがある場所から早めに立退き避難
水路や低地、地下街から離れる

住民が取るべき行動	災害への心構えを高める	避難行動を確認する	避難の準備を行う高齢者等と支援者は避難する	危険な場所から全員避難する	命の危険！直ちに安全確保

※避難情報の発令基準は、「京都市避難情報判断・伝達マニュアル」に記載

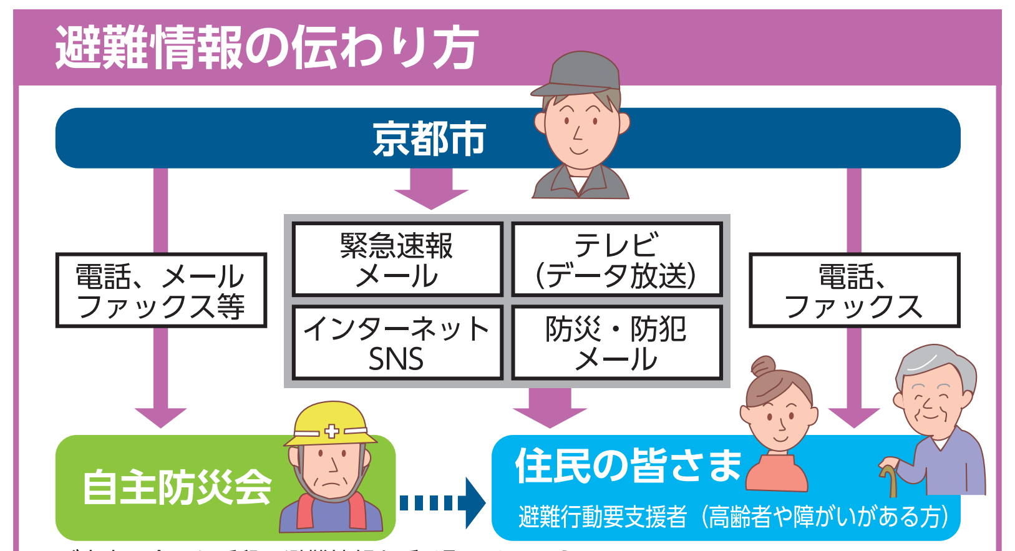
マイ・タイムラインを作ろう

災害時に自分自身が**とるべき行動をあらかじめ決めたものが「マイ・タイムライン」**です。

- いつ起こるか分からない水害に対して平常時からマイ・タイムラインを準備しておくことで、逃げ遅れを防ぎご自身や家族の安全を確保することにつながります。
- 市では皆さまのマイ・タイムライン作成を支援する特設ページを公開しています。ぜひアクセスしてみてください！

京都市マイ・タイムライン

避難情報の伝わり方

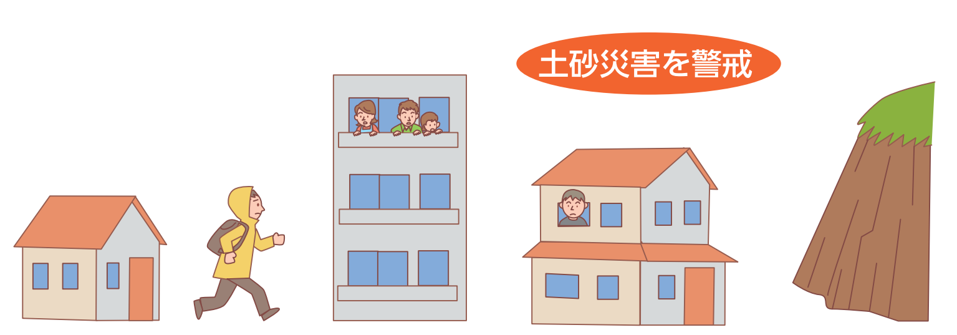


ご自身に合った手段で避難情報を受け取りましょう。

避難のタイミングを逃したら

指定の避難場所に限らず、最寄りの高く頑丈な建物に避難しましょう

自宅の２階以上で斜面から離れた部屋に避難しましょう



防災・気象情報を調べよう

防災・気象情報は、国や府、市から発信されます。これらの情報を入手する方法には、配信された情報を受け取るプッシュ型と、自分で調べるプル型があります。目的や状況に合った情報収集について確認しましょう。

配信情報を受け取る（プッシュ型）

緊急速報メール
国や自治体が発信する災害・避難情報が携帯電話に配信されます。

防災・防犯情報メール（京都府）
気象情報や防災情報などをメールでお知らせします。利用には事前登録が必要です。

自分から調べる（プル型）

京都市防災ポータルサイト
ハザードマップや気象・防災情報のほか平常時から役立つ情報を掲載。

京都市防災ポータルサイト X
X（旧 Twitter）のアカウントです
フォローすることで防災情報やアラートを受け取ることができます。

京都府河川防災情報
京都府域の河川水位や雨量、河川カメラ映像、洪水予測などを確認できます。

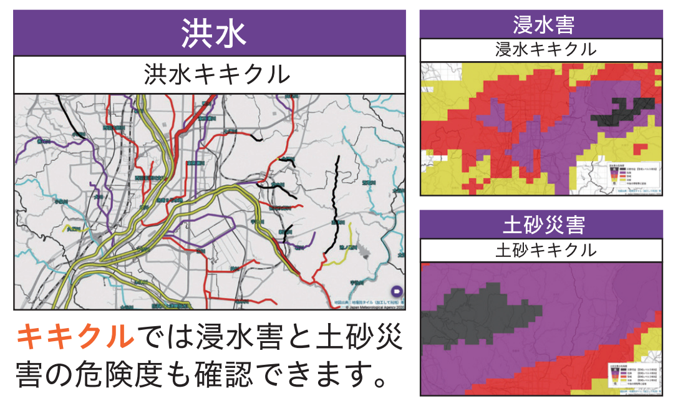
京都市の防災気象情報（気象庁）
市内の警報・注意報や、雨雲の動き、雨量などを確認できます。

洪水キキクル（気象庁）
大雨による洪水発生の危険度を色分けされた地図で確認できます。

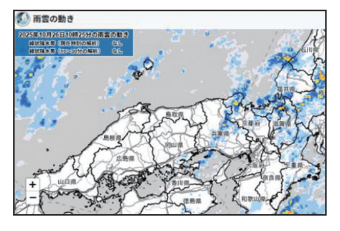
テレビやラジオを視聴する
テレビでは d ボタンを押すことで、防災・気象情報を確認できます。

情報収集で避難行動の安全性を高めよう

線状降水帯による集中豪雨など、**正確な予測が困難な大雨によって発生する内水氾濫や中小河川の洪水**が増えています。こうした水害では、これまでと同じ情報収集だけでは避難までの時間が十分に取れないことがあります。
キキクルや雨雲レーダー、河川カメラといった、詳細でリアルタイムの情報も活用して、自ら命を守るための避難行動につなげてください。（洪水の場合は、洪水キキクルを見てください。）



キキクルでは浸水害と土砂災害の危険度も確認できます。



雨雲レーダーの情報では、線状降水帯の発生や接近を高い精度で確認できます。

淀川水系　桂川　右岸　1.8. 2k
2026/01/26 14:52
京都市右京区嵯峨中ノ島町　渡月橋上流

河川カメラでは、洪水予報河川や水位周知河川のほか、中小河川の状況も確認できます。

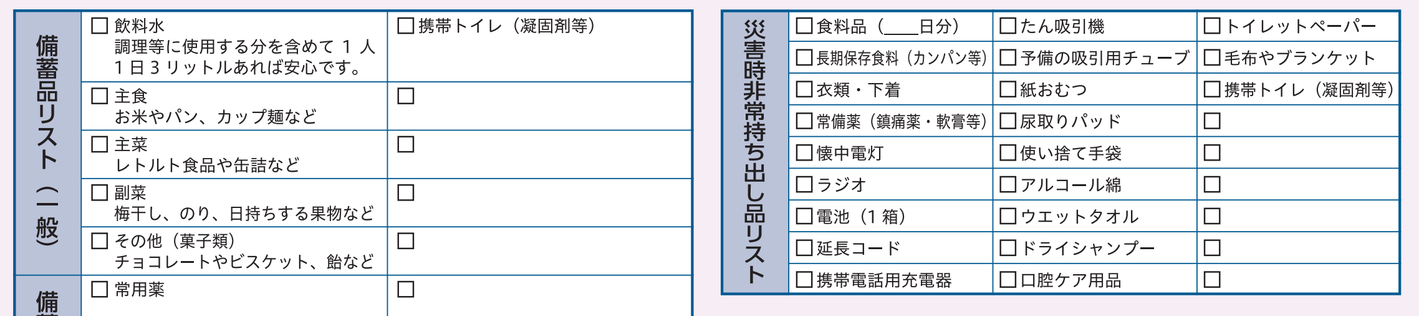
日頃から備えよう

非常持ち出し品と備蓄の確認

- 避難時の非常持ち出し品は日頃から準備し、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。
- 非常持ち出し品は必要最小限のものを選び、１つのリュックサックに収まる程度にしましょう。
- 在宅避難に備えて、食料品や飲料水などは普段から多めに常備し、使いながら補充する「ローリングストック」を行い、常に利用できる状態を保ちましょう。

水・食料
貴重品
生活用品
救急用品
衛生用品
その他

災害時非常持ち出し品と備蓄品のチェックリスト

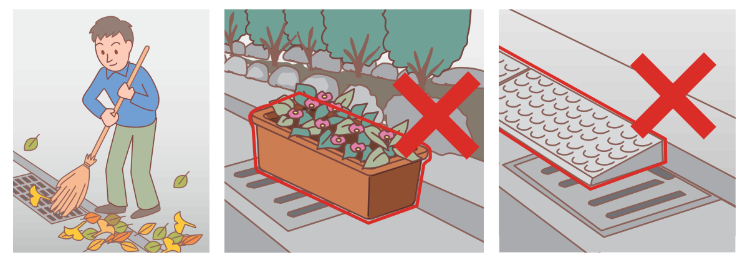


※リストの内容は一般的な例です。自分が必要とする備蓄品や災害時に持ち出す物をあらかじめ考え、備えておきましょう。
※食料品は最低でも３日分、できれば１週間分程度備蓄しましょう。
※災害時非常持ち出し品は、あわてず持ち出せるように、あらかじめリュック等にまとめておきましょう。

浸水への備え

身の周りの対策で被害を防ぐ

側溝や雨水ますを掃除し、ゴミや落ち葉で詰まらないようにしましょう。また、ふたの上に車両乗り入れブロックなどを置かないようにしましょう。



まるごとまちごとハザードマップを探してみよう

「まるごとまちごとハザードマップ」は防災啓発の一環として、街中の電柱や建物などに想定浸水深を表示した看板です。WEB 版ハザードマップで場所を確認して、身の周りで探してみてください。

避難訓練に参加する

京都市では、行政と住民が一体となった訓練や、自主防災会による体験型の防災訓練が行われています。訓練に参加して防災意識や災害時の実行力を高めましょう。

地域で助け合う（共助）

皆さまの周りにいる高齢者、障がい者、乳幼児や妊婦、外国人の人々は、地域の協力で安全確認や避難施設への移動を支援しましょう。